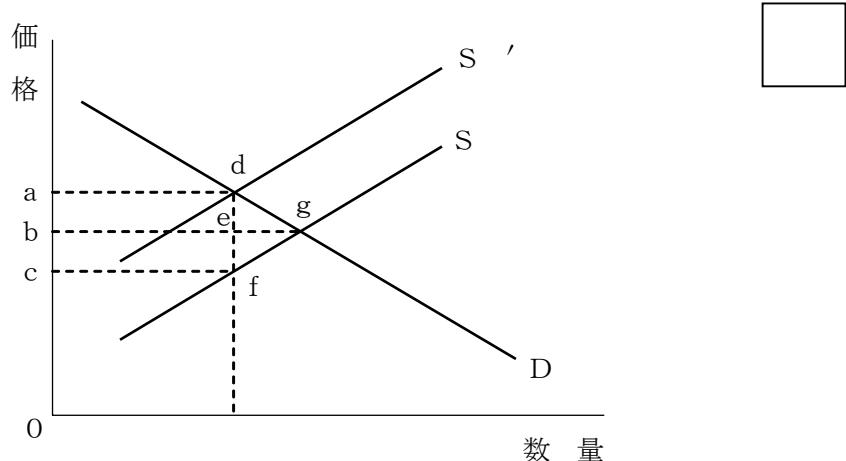


I 直前期！チェック問題

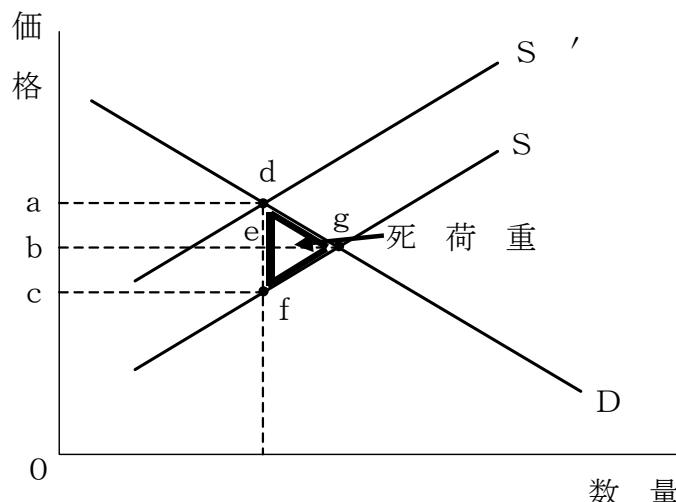
正誤を○, ×で答えよ。

- 1 ある財の市場の需要曲線Dと供給曲線Sが、当初、図のように与えられており、政府がその財の生産に課税したため供給曲線がS'にシフトしたとする。この課税に伴う余剰の損失は、図形d g fとなる。(H13 15問改題)

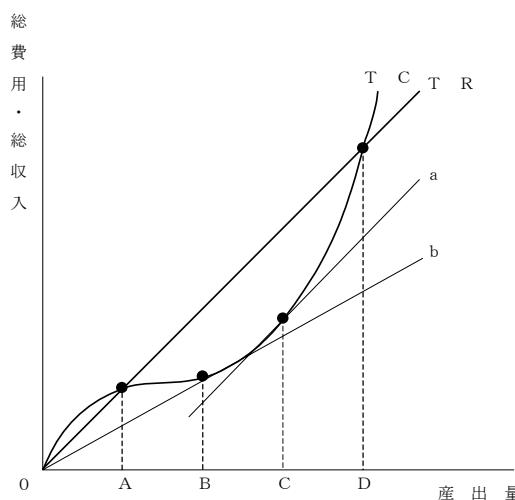


【正解】 ○

従量税の導入によって過少生産となるので、資源配分の非効率性（＝死荷重）が発生する。つまり、従量税の導入によって、取引量が過少となり、労働や資本が余ってしまう。その結果、失業問題や遊休設備などの問題が発生するのである。

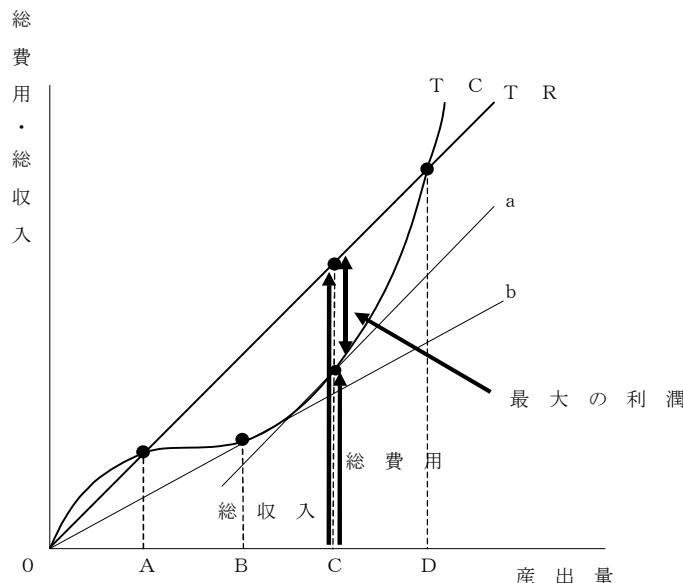


2 完全競争企業の総費用曲線 T_C と総収入線 T_R が図のように与えられているとする。ただし、図中、補助線 a は、産出量 C で T_C に接し、かつ T_R に平行な直線であり、補助線 b は、原点から引いた直線で、産出量 B で T_C に接しているものとする。このとき、利潤最大化の生産量は B である。(H13 21 問改題)

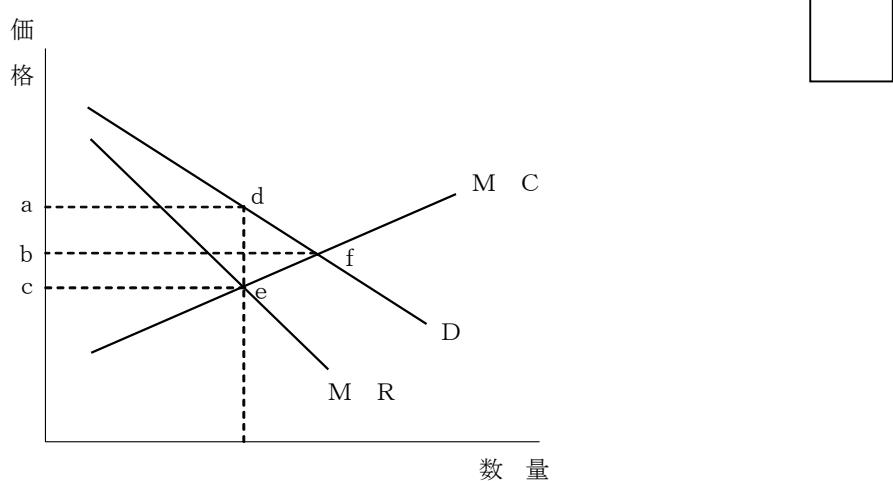


【正解】 ×

利潤最大化条件は、価格と限界費用の一致であるので、利潤最大化の生産量は C である。

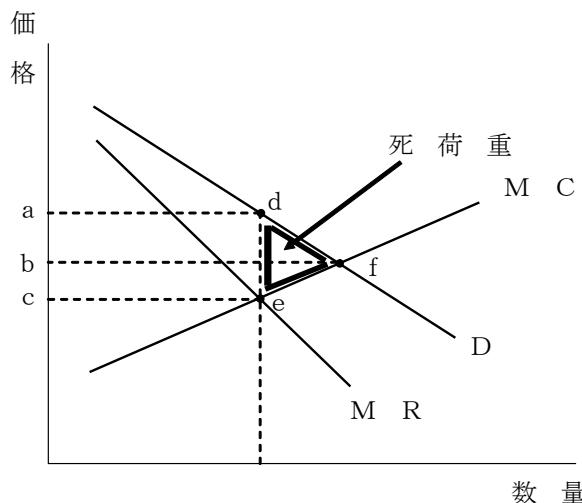


3 ある独占企業の限界費用曲線MC、限界収入曲線MR、この独占企業が直面する需要曲線Dが図のよう与えられているとする。このとき、この独占企業が利潤の最大化を実現した場合の余剰の損失は、図形d f eとなる。(H13 24問改題)

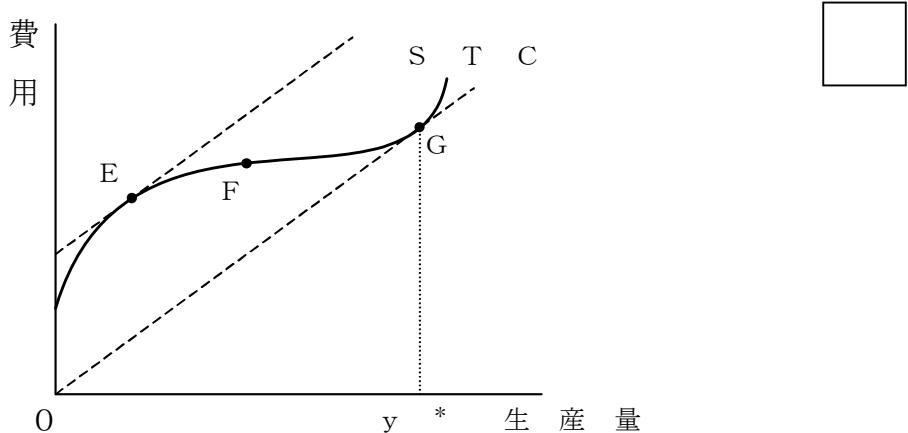


【正解】 ○

「余剰の損失=独占の厚生損失」または「死荷重 (deadweight loss)」の大きさは、図形d f eの大きさとなる。独占市場の場合、過少生産となるので、資源配分の非効率性が発生する。

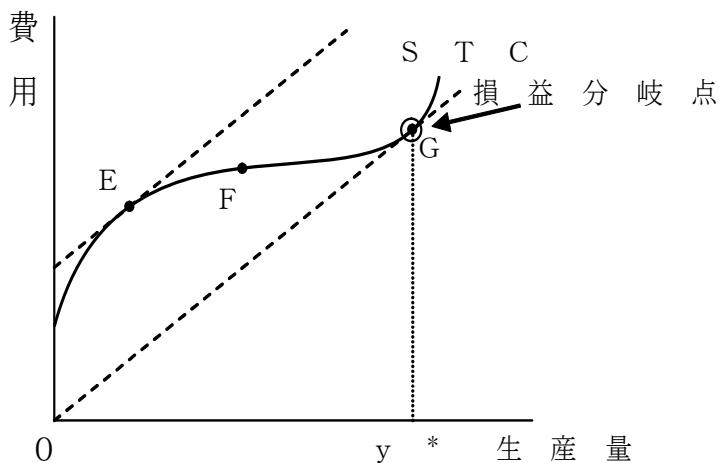


4 ある企業の短期総費用曲線 S T C が次のように与えられているとする。下図の S T C 上の E 点と G 点での接線の傾きは等しく、 F 点での接線の傾きはこれらよりも小さい。また、 G 点での接線は原点を通り、 S T C は G 点以外では、この接線よりも上方に位置している。ここで、この企業の生産量 y^* は、この企業にとっての操業停止点に対応する。(H14 19問改題)

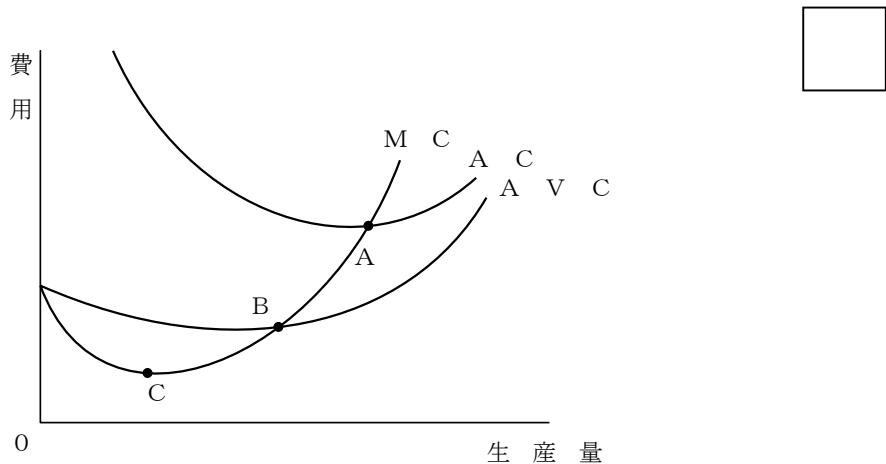


【正解】 ×

生産量 y^* に対応する G 点は、操業停止点ではなく、損益分岐点である。つまり、生産量 y^* の状況では、平均費用が最小になっている。

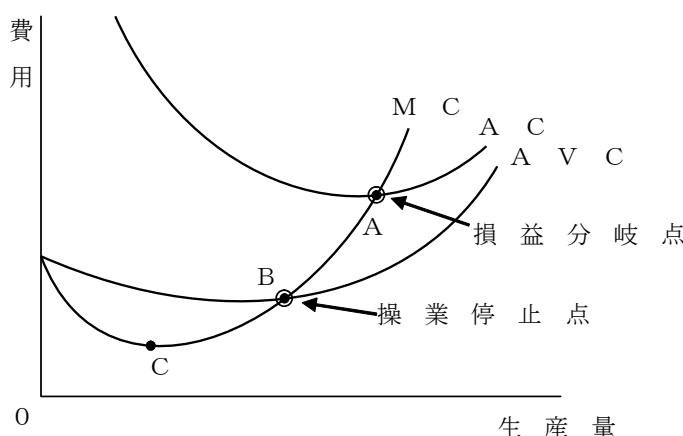


5 完全競争市場において、ある企業の平均費用曲線 $A\ C$ と平均可変費用曲線 $A\ V\ C$ および限界費用曲線 $M\ C$ が次のように与えられているとする。このとき、操業停止点は A 点、損益分岐点は B 点である。(H14 20 問改題)

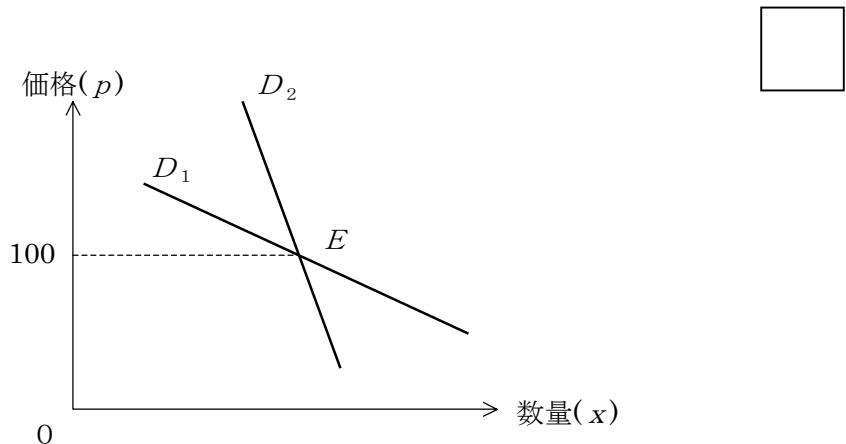


【正解】 ×

A 点は損益分岐点、B 点は操業停止点である。

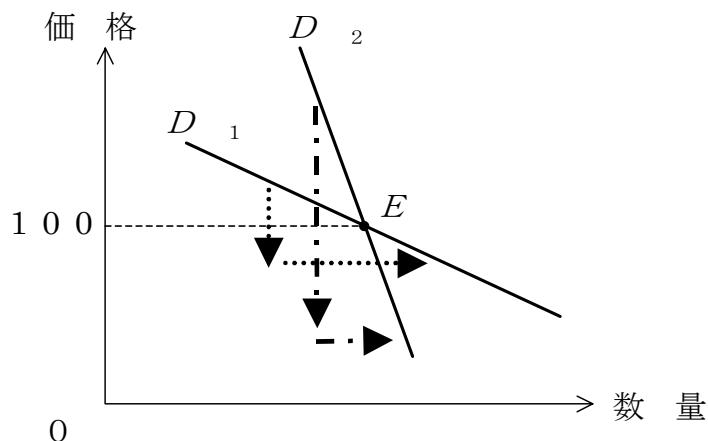


6 第1財と第2財の需要曲線がそれぞれ直線 D_1 , D_2 で表され, 下図はそれらを同じ図に書いたものである。2財ともに供給曲線は $p=100$ である。従って E 点で両市場とも均衡している。このとき, E 点での需要の価格弾力性は第1財の方が第2財よりも大きい。(H15 12問改題)

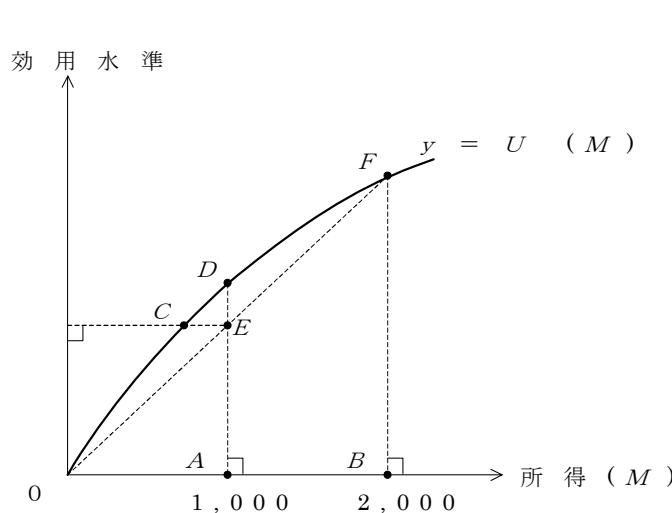


【正解】 ○

第1財の需要曲線の傾きの方が, 第2財の需要曲線の傾きよりも緩やかであるため, 第1財の方が需要の価格弾力性は大きい。

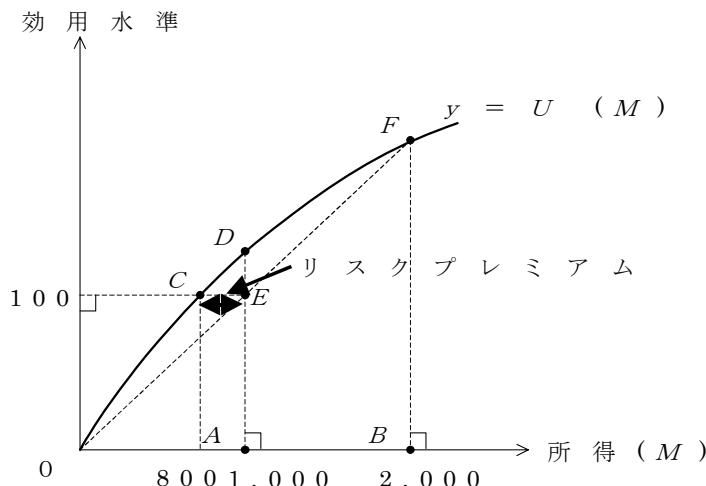


- 7 ある個人の所得 M のときの効用関数 $U(M)$ が、下図のようく表されるものとする。
このとき、この個人は危険回避的投資家であると判断される。(H15 21問改題)



【正解】 ○

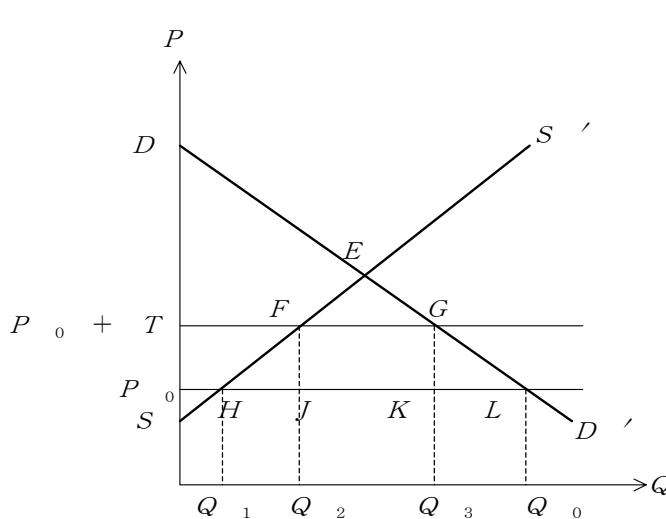
与えられた効用関数の形状から、この投資家は危険回避的であると判断される。また、参考までにリスクプレミアムはCEの大きさになる。



(補足説明)

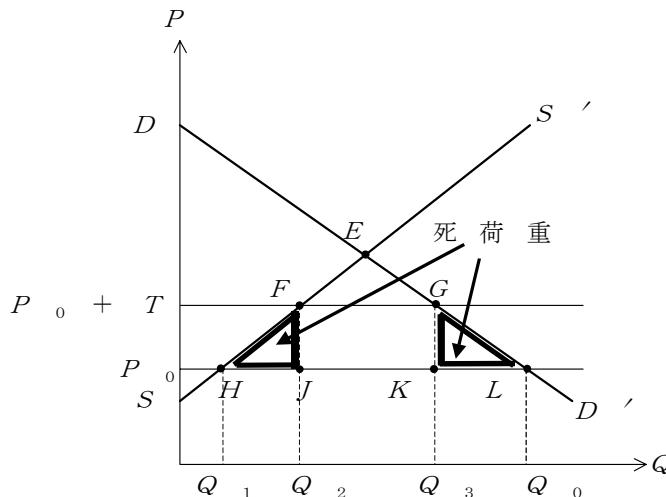
- ・100の効用を得ようすると・・・
- ⇒ 確実に所得を保障してくれるのであれば 800 でよい。
- ⇒ 不確実性を伴うならば、期待所得は 1,000 だけ必要となる。
- ⇒ つまり、不確実性を伴う場合、余計に 200 だけの所得を上乗せしてくれないと、100の効用が得られないであり、この 200 がリスクプレミアムとなる。

8 下図は、ある小国の輸入競争財の市場を表したものであり、 DD' は需要曲線、 $S'S$ は供給曲線である。いま、国際価格 P_0 のもとで輸入が行われているが、政府が単位当たり T 円の輸入関税を課し、国内価格が $(P_0 + T)$ に上昇したとしよう。このとき、余剰の損失は図形E G Fである。(H16 9問改題)

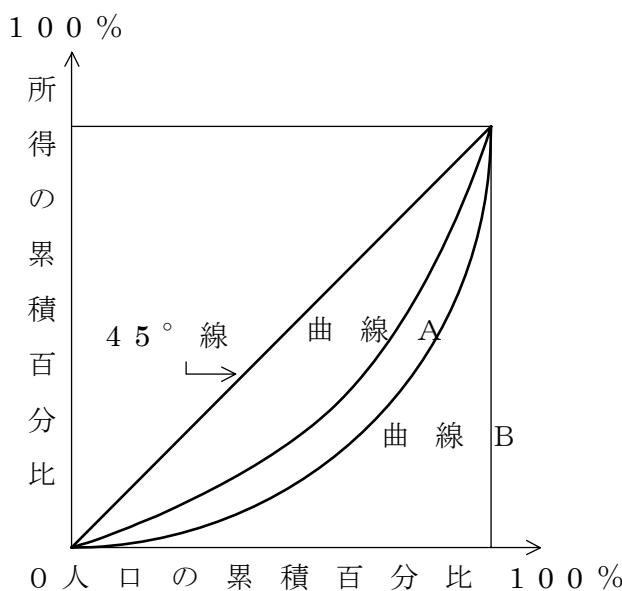


【正解】 ×

関税による余剰の損失は、図形F J Hと図形G L Kの合計である。

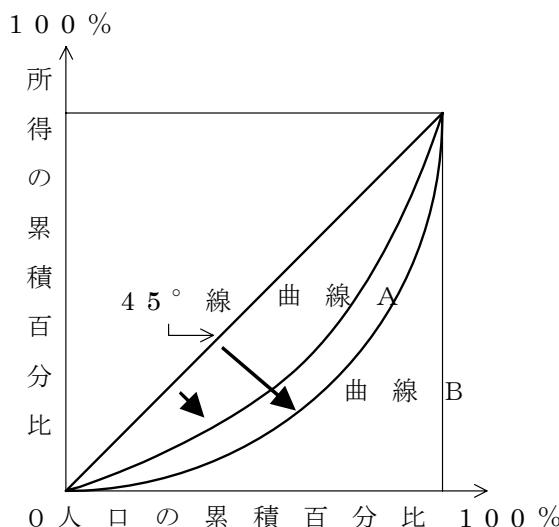


9 下図の曲線Aと曲線Bは、それぞれA国とB国の人口の累積百分比と所得の累積百分比の関係を示したローレンツ曲線である。このとき、A国はB国と比べて所得は平等に分配されている。(H16 12問設問1改題)

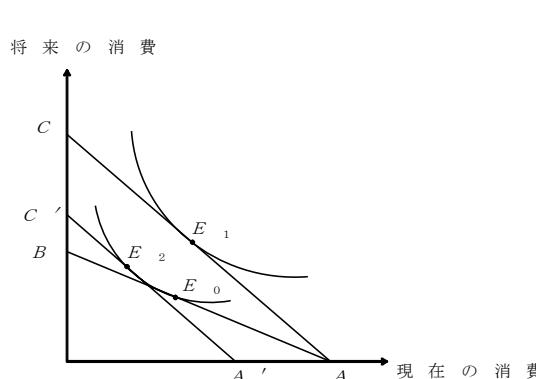


【正解】 ○

A国の方のローレンツ曲線の方がB国の方のローレンツ曲線に比べて45度線に近いため、所得が平等に分配されているといえる。

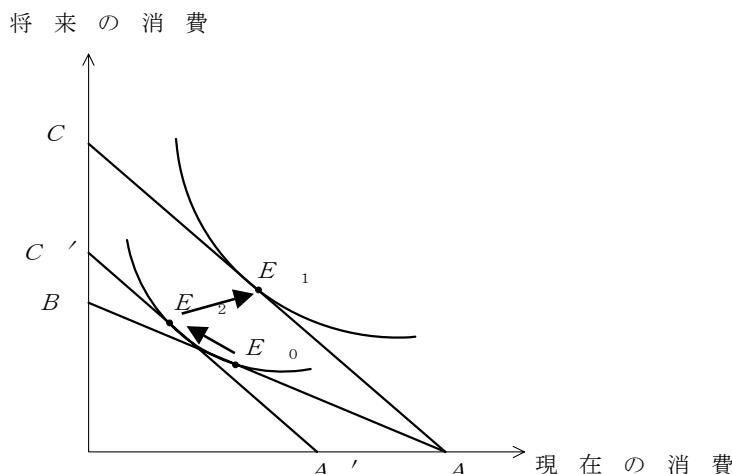


10 消費者は、貯蓄を通じて、現在の消費水準と将来の消費水準の最適な配分を模索する。下図では、現在の消費水準と将来の消費水準の間の予算制約線が、 AB で表されている。利子率が上昇した場合、所得効果は E_0 から E_1 まで、代替効果は E_1 から E_2 までで表される。(H16 20問改題)



【正解】 ×

代替効果は E_0 から E_2 まで、所得効果は E_2 から E_1 までで表される。



(補足説明)

・利子率が上がると・・・

- ① 代替効果：損得勘定 \Rightarrow 貯蓄しないともったいない！！ \Rightarrow 現在の消費減少
 \Rightarrow 点 E_0 から点 E_2
- ② 所得効果：損得勘定抜きで好きなことをやる。
 \Rightarrow 生活が豊かになったのだから現在の消費を増やそう！！ \Rightarrow 現在の消費増加
 \Rightarrow 点 E_2 から点 E_1